

情報システム利用技術に関するインタラクティブ発表

建築分野における情報システムの応用技術

A Study on Computer Technology Symposium

Application of information systems to architectural design and engineering

○構造 一郎*¹, 環境 二郎*¹, 計画 三郎*²
Ichiro KOUZOU*¹, Jirou KANKYOU*¹ and Saburou KEIKAKU*²

*1 建築大学建築学科 教授 工博

Professor, Department of Architecture, University of Kenchiku, Ph.D.

*2 情報株式会社設計部 部長 博士(工学)

Manager, Design Department, Joho Corporation, Ph.D.

キーワード：建築；構造；環境；計画；情報

Keywords: Architecture; structure; environment; planning; information.

1. はじめに

「インタラクティブ発表」は A4 版 1 ページまたは 2 ページで構成する。

上下の余白は 25mm, 左右の余白は 20mm。和文は明朝体, また英文はローマン体を用いる。

タイトル, 著者名, 職位等, キーワードは 1 段組で, 本文は 2 段組で記す。

2. 題目・著者名・所属等・キーワードについて

2.1. 題目

題目は日本語, 英語の順で, 14 ポイント, ボールド, 中央揃え (副題は 10.5 ポイント)。英語題目主題は **headline capitalization**, 英語副題は **sentence capitalization** とする。**Headline capitalization** は **Associated Press style** とするが, このサイト (<https://headlinecapitalization.com/>) などで確認できる。

- **Headline capitalization:** Symposium on Computer Technology of Information, Systems, and Application
- **Sentence capitalization:** Symposium on computer technology of information, systems, and application

2.2. 著者名

著者名は日本語, 英語の順に 9~10 ポイントの中央揃えで, 日本語の発表者名に○印を付ける。*(合い印)は半角*を上付きにする。英語著者名は **headline capitalization** とする。

2.3. 所属等

所属・職位・学位は日本語, 英語の順に 9~10 ポイント, 左揃えで記す。日本語の所属等には半角の*と著者名に対応した番号を付ける。英語の所属等は **headline capitalization** とする。

2.4. キーワード

キーワードは日本語, 英語の順で, 最大 6 つまでを 9~10 ポイントで中央揃え, それぞれをセミコロンで区切る。英語のキーワードは **sentence capitalization** とし, ピリオドで終わる。

題目と著者名の間, 著者名と職位等の間, 職位等とキーワードの間は 1 行あける。

3. 本文

キーワードの下に 2 行あけて本文を記す。本文は 2 段組で, 1 段の幅は 82mm, 段組の間は 6mm とし, 1 段にはなるべく 25 字×48 行 (文字の大きさ 9 ポイント相当) 入るように設定する。寸法内であれば, 文字数で 1 文字, 行数で 1 行程度の差があってもよい。1 ページ目については, 題目等が入るので本文の行数は各自調整すること。本文の各段落の頭は, 必ず字下げ (1 文字) する。

4. 図表について

4.1. 図について

本文と図の間は 1 行空け, 図は中央揃えにする。図幅は段の幅 82 mm 以内または 2 段分の 170mm 以内。図の次行には図番および図題を設け, 図番および図題の下は 1 行空ける(図 1)。

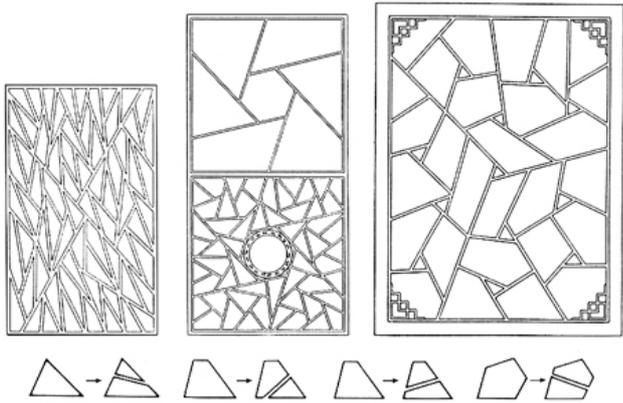


図1 図題は図の下に

4.2. 表について

本文との間に1行空け、表の前行に表番および表題を設ける。表の幅は、段の幅82mm以内または2段分の170mm以内とし、表の下は1行空ける（表1）。

表1 表題は表の上に

Please use Times New Roman font with a size of 8 points	Please use Times New Roman font with a size of 8 points

5. 参考文献

原稿の最後には、区切り罫線の後に参考文献を8ポイント、行間11ポイントで記す。参考文献は本文中で必ず参照¹⁾²⁾³⁾すること。Chat GPT等大規模言語モデル(LLM)使用による文章掲載の場合は、“引用”⁴⁾として明記すること。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 0
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 0
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 0
 1
 2
 3
 4
 5
 6

[参考文献]

- 1) Alias Abdullah、位寄和久、両角光男：AHPを用いたGISによるレクリエーション土地利用計画：阿蘇地域における土地利用計画に関する研究、日本建築学会計画系論文集、59巻、463号、pp.213-222、1994、DOI: https://doi.org/10.3130/aija.59.213_2
- 2) 佐藤俊作、福島泰明、藪内彰夫：原子力発電所の構造設計における詳細解析例とその問題点、日本建築学会・情報システム技術委員会第12回情報・システム・利用・技術シンポジウム、pp.7-12、1989
- 3) 日本建築学会編：建築・都市・環境デザインのためのモデリングと最適化技術、日本建築学会、2015
- 4) Chat GPT：質問内容（アクセス日：2023.5.10）